PROLOGUE

木二中 学校だより No.28 令和６年11月27日
校長　山元　竜二

木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801　千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280　FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j

「人や物事のせいにしてないか？誰の人生を歩んで行こうとしているんだ？」

「人生ってさ、自分が歩んできた通りの答えしか出してくれないもの。でも歩んできただけの答えを出してくれるものでもあるんだよね。」　～数年前の山元学級（３年）帰りの会の話より～

何をするにも手を抜いたり、人を裏切ったり、人を傷つけたり。いつかどこかで自分自身が悔い改めることができなければ、その先も同じ事の繰り返しになる。自分がしてきた行為や振る舞いを人にとやかく言われてしまうのは、自分がそうなるように歩んできた結果であるということに他ならない。奥歯を噛むことをしようとしない。つまり、悔い改めようとしない。無情にも、自分が歩んできたとおりの答えしか出ないということ。

人は誰でも過ちを犯すもの。どんなに善良な人であっても過ちを犯さない人はいない。だけど、過ちを犯した時に、何を感じ、何を悔い改め、どう生きていくのかを見据えることができるかどうか。それが大きな分岐点になるのではないだろうか。自分の行為や振る舞いによる結果を素直に受けとめ、非があれば反省し、悔い改めることで初めて「明日」を迎えることができる。たとえ自分がした行為や振る舞いにとやかく言う人がいたとしても、奥歯を噛んで生活をしていれば、一人、また一人ととやかく言う人はいなくなる。それどころか気がつけば一人、また一人と自分を助けてくれる仲間が増えてくる。つまり、自分が歩んできただけの答えを出してくれるということ。

人生の善し悪しなんか最初から決まっているものではない。では何が自分の人生を決めるのか。それは紛れもなく自分自身の歩みではないだろうか。

上記は、私がある中学校で第３学年の担任をしていた時、帰りの会で生徒たちに話した内容です。実はこの話には続きがあって、確か高校入試を間近に控えていた時期だったと思います。

間違いなく自分の人生に大きな影響を与えるはずの高校入試。「保護者や先生の期待に応えたい」という目に見えないプレッシャー。それだけじゃない。「塾の先生からのプレッシャー」、そして思うように上がらない数字(テストの点数)との格闘…。とにかく何もかもがうまく進まないもどかしさに心が折れそうになる…、いや、中には折れてしまっている生徒も。自分の将来に、人生に、真剣に向き合っている生徒ほど、不安定になる傾向にあると感じます。

残念ながら、その真逆の生徒もいます。私立併願校の校長推薦に関わる面接の中で、「何で４年制大学(短期大学・専門学校)に進学したいの？」、「何でその職業に就きたいの？」、「何のためにその職業に就くの？」、という私の質問に答えられない。答えられないならまだしも、「お金持ちになりたいから」は、中学３年生の回答としてどうなんだろう？確かに危険を伴う職業や、人の命をあずかる職業は、他に比べれば給料が高いのかもしれない。だけどそのような職業に就くには、何よりも揺るぎない使命感と覚悟が必要であるということがわかっていない。厳しい言い方かもしれないけど、「世の中そんなに甘くない」んです。

(その両方の生徒に向かって)

あのさ、思い通りにならないからって凹んでてテストの点数は上がる？自分の志望校に対して点数が足らないことを人や物事のせいにしてないか？誰が受けたテストよ？高校入試は先生や保護者が代わりに受けるのか？凹む前にやることはいっぱいあるでしょうよ。そうやって凹んでいる時間がもったいない。ライバルたちはきっと「そのまま凹んでいてくれ」って思っているかもしれないよ。

自分の将来にしっかり向き合えていない人たち、夢や将来の職業についてはこれからいろんな経験や出会いを通じて見つけていきたいと考えられているならいいけどさ、そんなことも考えずに高校に進学したって何の意味もない３年間になっちゃうよ。みんな誰の人生を歩んで行こうとしているのよ？

思った通りの結果にならないことなんか人生にいくらでもある。けどそれは、自身が歩んできたその結果。良かろうが悪かろうがそれを真摯に受けとめてどう生きていくかが大事なんじゃないの？頑張っている人に「頑張れ」は酷かもしれないけど、でも頑張れ。人生かかっているんだから。